

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 吉川 豊

印刷部数11万5000部
 (購読料は組合費のなかに含まれています)
 (年間購読料 千八百円)
 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

クールファン
今年も特別価格

新商品として、フード付きでヘルメットの上から被れるものもあり、首筋も涼しく作業ができます。東京土建特別価格で販売します。熱中症対策に活用して下さい。
 (関連記事6面)



墨田支部のみなさん。前列左から3人目が間船組織部長、4人目が藤川委員長

春の仲間を増やす月間、拡大月間が終了しました。東京土建全体で拡大率42.72人、月間拡大率3.82%で本部目標を達成することができました。結果、6月当初人員を11万1193人として

6月7日、執行委員会終了後に、墨田支部の春の拡大支部打ち上げ式が行われました。墨田支部は本部目標を大

30年ぶりに
5年ぶり!
30支部が目標達成
11万人台の組織に戻す
春の拡大月間

墨田 全都トップの実増率
諸運動との相乗効果で

大きく上回る拡大率4.29%、14人の新しい仲間を迎え、実増率において全都で唯一1%を超える1.55%という突出した到達を築きました。

冒頭、本部を代表してあいさつに立った松本副委員長から「色々な取り組みで8つの分会が協力し合って素晴らしい結果を出していただいた」と感謝が述べられました。続いて報告に立った間船組織部長は、出席の執行委員に対して6年ぶりに全分会達成となったことにお礼を述べた後、総括を読み上げました。総括では今回の特徴として、事業所の新規採用が基本となった

もの、加入理由が多岐に渡り、諸運動との相乗効果を図るなかで組織力が発揮された

ことなどが報告されました。そして、明るい雰囲気なかで分会表彰に移りました。拡大率も訪問行動数もトップとなった立花分会からは「ちょっと過ぎ過ぎ。常に入部ではないが、秋またがんばる」と述べられ、ひと際大きな拍手が送られました。

対話・行動量が増加
コロナ禍2年の経験活す



右から中村委員長、榎山組織部長、小番書記長

【本部・榎山組織部長 記】6月当初人員は1月比36.1人減、1月比0.32%減となりましたが、支部別では月間目標3.5%達成30支部、年間6%達成10支部です。また、1月比増勢が14支部のうち1%以上増勢をしたのは1支部です。青年部、シニア、主婦の会もそれぞれ部員・会員拡大目標を達成しました。仲間の厳しい状況に引き合い、コロナ禍2年の経験を活かす春の大運動・拡大月間は、組織機能の回復・再活性化を

めざすなかで、後継者課題や仲間の窮状解決にむけた建設アクションと拡大月間を結び付けて、3.5%目標達成と年間組織増勢が求められた月間でした。各支部ともに対話訪問を行動の中心に、対話・行動量が増加し「事業復活支援金を知らない」とする仲間呼びかけ、感謝とともに信頼が高まり、対象者紹介・加入に結び付く経験を得ました。

3月末からの2カ月間余り、悩み苦しむ仲間へ寄り添い、未組織の仲間も一人にさせない春の大運動に、最後まで奮闘された支部・分会役員、活動家のみならず、各支部の書記局のみならず心から感謝を申し上げます。6から8月は、仲間のつながり夏の大運動とし、6月は「夏一番拡大」を設定しました。春からの行動体制を継続し、後継者世代としっかりつながり、各支部の学習会や交流会に呼び込むなかで、要求運動とも結び付けて、目標1%の仲間を増やす期間にしていきます。

2022年春の拡大月間到達 (6月1日現在)

支部名	目標	累計	月間拡大率	支部名	目標	累計	月間拡大率
足立	300	214	2.49	中野	★172	197	4.03
荒川	★67	67	3.5	杉並	★113	169	5.27
葛飾	★152	154	3.56	三鷹武蔵野	★73	85	4.08
文京	★38	41	3.85	狛江	★47	56	4.22
台東	52	29	1.97	調布	97	76	2.76
墨田	★93	114	4.29	多摩西部	★138	166	4.22
江東	★112	144	4.52	西多摩	★141	165	4.1
江戸川	★312	360	4.04	小金井国分寺	★45	45	3.54
板橋	★171	224	4.6	府中国立	★100	122	4.31
豊島	★75	87	4.1	八王子	★79	83	3.67
北	★95	109	4.02	日野	★81	82	3.58
練馬	★235	275	4.1	多摩・稲城	★76	87	4.05
港	★45	47	3.71	町田	★91	91	3.52
品川	75	36	1.69	小平東村山	★95	105	3.88
大田	★155	183	4.13	清瀬久留米	59	44	2.61
目黒	★76	141	6.49	西東京	★59	69	4.1
渋谷	★103	103	3.5	村山大和	71	55	2.73
世田谷	★164	167	3.57	全支部合計	★3,923	4,272	3.82%
新宿	★66	80	4.29				

★は目標達成

投票しなければ
変わるものも
変わらない

GO VOTE
7.10
選挙に行こう!

4~5面に「参議院選挙」特集。
私たちの要求を確認しよう!

朝やけ
パキスタンやアフガニスタンで医療支援や現地の人々に寄り添った活動を行なった医師の中村哲さん。その35年の軌跡をまとめた映画「荒野に希望の灯をともす」(制作/日本電波ニュース社)が7月より順次全国公開になるといふ。先駆けて観る機会を得た。

中村さんは、現地で医師として患者の命に向き合うなかで、病気の背景にある慢性的な食料不足と栄養失調を解決するため、水路建設が必要と判断し、着手する。白衣から作業着に着替え、水路建設の技術を独学で学んだ。そして自らコンボを探り設計図を描いた。普段は朴訥な温かい人柄ながら、現場では鬼監督だったらしい。故郷・福岡の山田堰(せき)を参考にするなど研究を重ね、安定して水量を確保できる取水法も確立した。

結果、10本の用水路を作り、65万人が食べて暮らせるようになったという。広大な砂漠が森に変わっていく映像は驚くべきもので一見の価値がある。圧倒的な説得力で、中村さんがやり遂げたことが迫ってくる。活動の後半は、医療は他の人にまかせて、自分は土木の方に専念しようだ。そんな最中の2019年12月、銃弾に倒れた。アフガニスタンでは干ばつ地帯と紛争地帯が一致しているといふ。その意味でも水路建設の意義は大きかった。